録音する–TYPE I（ノーマル）テープ専用

1 ■≜ボタンを押し、録音用カセットを入れる。
TYPE I（ノーマル）テープをお使いください。

2 録音するものを選ぶ。

CDを録音するとき
CDボタンを押し、CDを入れる（「CDを聞く」参照）。

ラジオを録音するとき
ラジオ バンド切換•オートプリセットボタンを押し、録音する放送局を受信する（「ラジオを聞く」参照）。

3 ●ボタンを押す。
◀ボタンが同時に押され、録音が始まります。

こんなときは	押すボタン
録音を止める	■≜
録音を一時停止する	❚❚ もう一度押すと録音が始まる。
電源を入／切する	電源

ちょっと一言
- 録音中、音量や音質を変えても録音される音は変わりません。
- 安定した状態で録音するために、録音時には家庭用電源に接続してお使いください。
- AM放送を録音するとき、手順3の●ボタンを押したあと「ピー」という雑音が出ていたら、モードボタンを繰り返し押して、もっとも雑音が消える「ISS」表示を選んでください。
- 録音した音を消去するには
  1 音を消したいテープを入れる。
  2 テープボタンを押す。
  3 ●ボタンを押す。

音楽を聞きながら眠る

1 聞きたい音楽の再生を始める。

2 スリープボタンを押して、「SLEEP」を表示させる。

3 スリープボタンを押して、時間（分）を選ぶ。
ボタンを押すごとに「60」→「90」→「120」→「OFF」→「10」→「20」→「30」と 変わります。

スリープ機能を途中で止めるには
電源ボタンを押して、電源を切ります。

ご注意
テープを聞きながらお休みになるときは
片面のテープの長さが設定した時間より長いときは、片面の再生が終わるまで電源は切れません。

好みの音質で聞く

重低音を楽しむには

MEGA BASSボタンを押す。
「MEGA BASS」が表示されます。
通常の音質に戻すには、もう一度MEGA BASSボタンを押します。

使用上のご注意

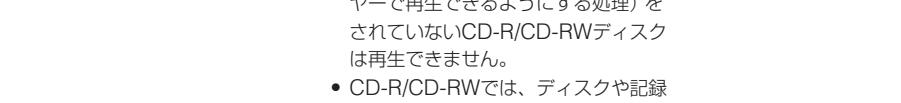
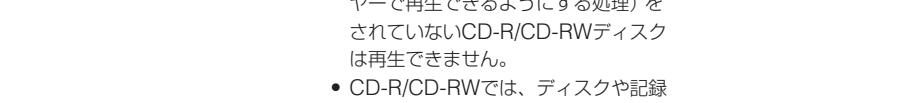
置き場所について
本機やカセットテープ、CD等を次のような場所には置かないでください。
- 磁石やスピーカーのすぐそばなど、磁気を 帯びたところ
- テレビの近く

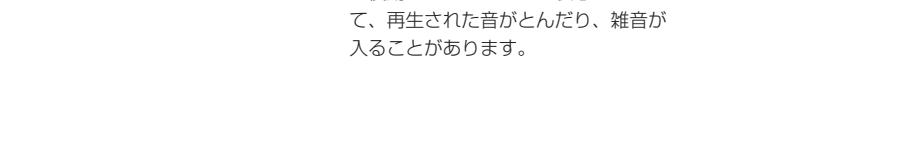
取り扱いについて
- CDぶたを開けたまま放置しないでください。内部にゴミやほこりが入り、故障の原因になることがあります。
- 本機のスピーカーには強力な磁石を使っていますので、次のようなものは本機のそばに置かないでください。
  - 時計
  - クレジットカードなどの磁気カード
  - カセットテープ、ビデオテープなどの磁気テープ
- カセットデッキを長い間使わなかったときは、数分間再生状態にして、ならし運転をしてください。よい状態でお使いいただけます。

CD-R/CD-RWについて
- 本機は、CD-DAフォーマット＊で記録されたCD-R（レコーダブル）とCD-RW（リライタブル）ディスクを再生することができます。ただし、ディスクや記録に使用したレコーダーの状態によっては再生できない場合があります。
  ＊CD-DAは、Compact Disc Digital Audioの略で、一般オーディオCDに使用されている、音楽収録用の規格です。

著作権保護技術付音楽ディスクについて
- 本機は、コンパクトディスク（CD）規格に準拠した音楽ディスクの再生を前提として、設計されています。最近、いくつかのレコード会社より著作権保護を目的とした技術が搭載された音楽ディスクが販売されていますが、これらの中にはCD規格に準拠していないものもあり、本機で再生できない場合があります。

DualDiscについて
- DualDiscとはDVD規格に準拠した面と、音楽専用面とを組み合わせた新しい両面ディスクです。尚、この音楽専用面はコンパクトディスク（CD）規格には準拠していないため、本製品での再生は保証致しません。

CDの取り扱いかた
- 文字の書かれていない面（再生面）に触れないように持ちます。
- 紙やシールなどを貼ったり、傷つけたりしないでください。

- 長時間再生しないときは、ケースに入れて保存してください。ケースに入れずに重ねて置いたり、ななめに立てかけておくとそりの原因になります。
- 本機では円形ディスクのみお使いいただけます。円形以外の特殊な形状（星形、ハート形、カード型など）をしたディスクを使用すると、本機の故障の原因となることがあります。

CDのお手入れのしかた
- 指紋やほこりによるCDの汚れは、音質低下の原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でCDの中心から外の方向へ軽く拭きます。

- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた布で拭いたあと、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などは、CDを傷めることがありますので、使わないでください。

故障かな？と思ったら

サービス窓口にご相談になる前にもう一度チェックしてみてください。ご不明な点があるときは、右下に記載されているお客様ご相談センターにご相談ください。

共　通

電源が入らない。
- 乾電池を正しく入れる。
- 乾電池が消耗していたら、すべて新しいものと交換する。
- 乾電池でお使いの場合は、リモコンで電源を入れることはできません。

表示窓に「bAttEry」と「Error」が交互に点滅している。
- 乾電池の向きが正しくない→乾電池を正しく入れる。
- 乾電池が消耗していたら、すべて新しいものと交換する。

音が出ない。
- 音量を調節する。
- ヘッドホンを🎧(ヘッドホン)端子から抜く。

雑音が入る。
- 近くで携帯電話などの電波を発する機器を使用している→携帯電話などを本機から離して使用する。

CD部

再生が始まらない。
CDが入っているのに「no dISC」が表示される。
- CDが裏返し→文字のある面を上にする。
- CDの汚れがひどい→クリーニングする。
- レンズに露（水滴）がついている→CDを取り出してCDぶたを開けたまま1時間くらい置く。
- ファイナライズ処理（通常のCDプレーヤーで再生できるようにする処理）をされていないCD-R/CD-RWディスクは再生できません。
- CD-R/CD-RWでは、ディスクや記録に使用したレコーダーの状態によって再生できない場合があります。
- 乾電池が消耗していたら、すべて新しいものと交換する。

音がとぶ。
- 音量を下げる。
- CDの汚れがひどい→クリーニングする。
- 振動のない場所に置く。
- CDに傷がある→CDを取り換える。
- CD-R/CD-RWでは、ディスクや記録に使用したレコーダーの状態によって、再生された音がとんだり、雑音が入ることがあります。

ラジオ

FM受信時ステレオにならない。
- モードボタンを押して、「ST」を表示させる。
- ステレオ放送のときのみステレオで聞くことができます。

雑音が入る。
- FMステレオ放送を受信しているときは、受信状態によっては雑音が多くなります。
- 乾電池が消耗していたら、すべて新しいものと交換する。
- テレビの近くでAM放送を受信すると、AM放送に雑音が入ることがあります。また室内アンテナを使用しているテレビの近くで、本機でFM放送を聞くと、テレビの画像が乱れることがあります。このようなときは、本機をテレビから離してください。
- AM放送受信時にリモコンで操作すると、雑音が入ることがあります。
- このラジオ（チューナー）のテレビ音声回路はFM放送の受信回路と兼用になっています。このため一部の地域ではテレビ2または3チャンネルの音声を受信中、FM放送が混じって聞こえることがあります。その場合にはお近くのサービス窓口にご相談ください。

テープ部

操作ボタンを押してもテープが動かない。
- カセットぶたをきちんと閉める。

前の録音が完全に消えない。
- 消去ヘッドをクリーニングする。
- 乾電池が消耗していたら、すべて新しいものと交換する。
- TYPE II（ハイポジション）、TYPE IV（メタル）テープを使っている→録音できるテープはTYPE I（ノーマル）のみです。

録音ができない。
- カセットを正しく入れる。
- デッキに入れたカセットのツメが折れていたら、穴をセロハンテープなどでふさぐ。

雑音が多い。音質がよくない。
- ヘッドが汚れている→市販の綿棒や柔らかい布にクリーニング液を軽く含ませて、下図に示されているテープが触れる面を軽くふく。
- ヘッドが磁化されている→市販のヘッドイレーサーを使ってヘッドを消磁する。

音が歪む。
- TYPE II（ハイポジション）またはTYPE IV（メタル）テープはお使いになれません。TYPE I（ノーマル）テープをお使いください。

リモコン部

リモコンで操作ができない。
- リモコンの乾電池が消耗していたら、新しいものと交換する。
- リモコンを本体へ向けて操作する。
- 本体とリモコンの間に障害物があったら、取り除く。
- 本体リモコン受光部に強い光（直射日光や高周波点灯の蛍光灯など）が当たっていたら、当たらないようにする。

● http://www.sony.co.jp/SonyDrive/

お客様ご相談センター
● ナビダイヤル ········ 0570-00-3311
（全国どこからでも市内通話料でご利用いただけます）
● 携帯電話・PHSでのご利用は 03-5448-3311
（ナビダイヤルがご利用できない場合はこちらをご利用ください）
● FAX ···················· 0466-31-2595
受付時間：月〜金 9:00〜20:00　土・日・祝日 9:00〜17:00
お電話は自動音声応答にてお受けしています。

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川 6-7-35

主な仕様

CDプレーヤー部

型式	コンパクトディスクデジタルオーディオシステム
チャンネル数	2チャンネル
ワウ・フラッター	測定限界以下（JEITA*）
周波数特性	20 － 20,000Hz +1/-2dB（JEITA）

ラジオ部

受信周波数	FM/TV: 76 －108MHz（1 － 3CH） AM: 531 － 1,629kHz
アンテナ	FM/TV: ロッドアンテナ AM: フェライトバーアンテナ内蔵

カセットデッキ部・共通部

トラック方式	4トラック2チャンネル
スピーカー	フルレンジ: 10cm、コーン型3.2Ω、2個
早巻き時間	約2分（ソニーカセットテープC-60使用）
周波数範囲	TYPE I（ノーマル）カセット 80 － 10,000Hz (JEITA)
出力端子	ヘッドホン（ステレオミニジャック）1個 負荷インピーダンス 16 －68Ω
実用最大出力	2.3W + 2.3W （JEITA/3.2Ω）
電源	本体用: 家庭用電源（AC100V 50/60Hz） 単1形乾電池6個使用 （DC 9V） リモコン用: 単4形乾電池2個使用 （DC 3V）
消費電力	14W

電池持続時間

測定条件＼使用乾電池	ソニーニュースーパー R20P	ソニーアルカリ LR20
テープ再生時**（JEITA）	約7.5時間	約15時間
FM録音時（JEITA）	約13.5時間	約20時間
CD再生時**（JEITA）	約2.5時間	約7時間

* JEITA（電子情報技術産業協会）規格による測定値です。
** 音量6分目程度

最大外形寸法	約414 × 164 × 257mm（幅 × 高さ × 奥行き）（最大突起部含む）（JEITA）
質量	本体　約2.9kg ご使用時　約3.7kg（乾電池、CD、テープ含む）
付属品	電源コード（1） リモコン（1） リモコン用単4形乾電池（2） 取扱説明書・保証書（1） ソニーご相談窓口のご案内（1）

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

eco info
- 主なはんだ付けに無鉛はんだを使用しています。
- 主なプリント配線板にハロゲン系難燃剤を使用していません。
- 包装用緩衝材に100%再生紙を使用しています。

保証書とアフターサービス

保証書
●所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
●保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを
この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときは
お買い上げ店または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について
当社ではCDラジオカセットコーダーの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

SONY

3-262-434-**02**(1)

CD ラジオカセットコーダー

取扱説明書・保証書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告　電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ**、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

CFD-S300

CDラジオカセットコーダー
CFD-S300

T04-1001A-3

電源を準備する

録音するときは、電力消費量が大きいため、家庭用電源でお使いください。

電源コードを接続する

本機のAC IN端子に差し込んだあと、壁のコンセントへ差し込んでください。

乾電池で使う

単1型乾電池6個（別売り）を入れてください。乾電池でお使いになるときは、電源コードは抜いてください。

乾電池の交換について

乾電池のみで使用中、乾電池が消耗してくると電源／電池ランプが暗くなったり、自動的に電源が切れたりします。乾電池をすべて新しいものと交換してください。

ご注意

- 乾電池を出し入れするときは、CDを取り出しておいてください。CDぶたの中でCDがずれて傷つくおそれがあります。
- 乾電池でお使いの場合は、リモコンで電源を入れることはできません。

リモコンに乾電池を入れる

乾電池の交換について

乾電池が消耗してくると、リモコンで操作できる距離が短くなります。乾電池をすべて新しいものと交換してください。ふつうの使いかたで約6か月もちます。

各部のなまえ

本体

リモコン

電源ボタン
ファンクションボタン
▶IIボタン
■ボタン
バンド切換ボタン
|◀◀•プリセット–ボタン
▶▶|•プリセット+ボタン
音量–、+*ボタン

* 凸点がついています。操作の目印としてお使いください。

ちょっと一言

ヘッドホンで聞くときは、ヘッドホンを(ヘッドホン) 端子につないでください。

録音についてのご注意

- 録り直しのきかない録音の場合は、必ず事前にためし録りをしてください。
- CDラジオカセットコーダーの不具合により録音されなかった場合の録音内容の補償については、ご容赦ください。

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。

CDを聞く

1 CDボタンを押す。
自動的に電源が入ります。

リモコンでは、電源ボタンを押した後にファンクションボタンを繰り返し押して「Cd」を表示させます。

2 ⏏押す 開/閉を押して、CDぶたを開け、CDを入れる。

3 CDぶたを閉める。

4 ▶IIボタンを押す。
再生が始まります。

こんなときは	押すボタン
音量を調節する	音量+、–
再生を止める	■
再生中に一時停止する	▶II もう一度押すと再生が始まる。
次の曲へ進む	▶▶|
曲の頭に戻る	|◀◀
CDを取り出す	⏏押す 開/閉
電源を入／切する	電源

表示窓の見かた

全曲数と全再生時間を調べるには

停止中、表示切換•決定•メモリーボタンを押す。

残り時間を調べるには

再生中、表示切換•決定•メモリーボタンを押す。
押すたびに次のように表示が変わります。

→ 再生中の曲番と再生経過時間（通常表示）
↓
再生中の曲番と曲の残り時間*
↓
CD全体の残りの曲数と残り時間

* 21曲以降の曲では、再生中の曲の残り時間は「--:--」と表示されます。

聞きたい曲を選ぶ

選びかた/探しかた	操作のしかた
曲番で直接選ぶ	聞きたい曲番の数字ボタンを押す。
聞きながら探す	再生中に▶▶| または |◀◀ ボタンを押したままにする。
表示窓の再生時間を見ながら探す	一時停止中に▶▶| または |◀◀ ボタンを押したままにする。

ちょっと一言

11曲目以降の曲を選ぶには、>10ボタンを押したあと10の位の数、1の位の数という順に数字ボタンを押します。
例：23曲目を選ぶには、>10→2→3の順に押します。

ご注意

曲番で直接選ぶ場合は、表示窓に「SHUF」「PGM」が出ていたら、■ボタンを押して消します。

繰り返し聞く（リピート再生）

1 CDボタンを押す。

2 以下の操作をする。

リピートの種類	操作
1曲だけ繰り返す	1 モードボタンを押して「REP 1」を表示させる。 2 数字ボタンを押して曲を選ぶ。
全曲を繰り返す	1 モードボタンを押して「REP ALL」を表示させる。 2 ▶IIボタンを押す。
順不同に繰り返す	1 モードボタンを押して「SHUF REP」を表示させる。 2 ▶IIボタンを押す。
プログラムした曲順で繰り返す	1 モードボタンを押して「PGM REP」を表示させる。 2 プログラムしたい順に数字ボタンを押す（20曲まで）。 3 ▶IIボタンを押す。

リピート再生をやめるには

モードボタンを繰り返し押して「REP」表示を消します。

順不同に聞く（シャッフル再生）

1 CDボタンを押す。

2 モードボタンを押して「SHUF」を表示させる。

3 ▶IIボタンを押す。
再生が始まります。

シャッフル再生をやめるには

モードボタンを繰り返し押して「SHUF」を消します。

聞きたい曲を好きな順に聞く（プログラム再生）

1 CDボタンを押す。

2 モードボタンを押して「PGM」を表示させる。

3 聞きたい順に、曲番の数字ボタンを押していく。
20曲までプログラムすることができます。

表示窓
選んだ曲番 ― PGM 03 01 ― プログラムでの曲順

4 ▶IIボタンを押す。
プログラムした順に再生が始まります。

プログラム再生をやめるには

モードボタンを繰り返し押して「PGM」を消します。

曲順を確認するには

停止中に表示切換•決定•メモリーボタンを押します。押すたびに、プログラムした順で曲番が表示されます。

プログラムを変更するには

再生前には1回、再生中には2回、■ボタンを押して現在のプログラムを消してから、プログラムし直します。

ちょっと一言

プログラム再生を録音するには、プログラムを作ってから、録音用カセットを入れ、●ボタンを押して録音を始めます。

ラジオを聞く

1 ラジオ バンド切換•オートプリセットボタンを押して、FMまたはAMを選ぶ。
ボタンを押すと自動的に電源が入り、「FM」（「TV」）または「AM」が出ます。切り換えるときはもう一度押します。

表示窓
FM

2 選局+または選局–ボタンを押したままにし、数字が動き始めたら指を離す。

放送局を自動的に受信して止まります。受信できなかったときは、選局+または選局–ボタンを繰り返し押して、聞きたい局の周波数に合わせます。

こんなときは	押すボタン
音量を調節する	音量+、–
電源を入／切する	電源

受信状態をよくする

FM（TV1～3ch）放送のとき

ロッドアンテナを伸ばし、向きを変える。

AM放送のとき

本体を最も受信状態の良い方向へ向ける。

ちょっと一言

- 本機では、FMステレオ放送のみステレオで聞くことができます。AM、TV1–3のステレオ放送はモノラルになります。
- FMステレオ放送の雑音が多いときは、モードボタンを押して、表示窓に「Mono」を出します。音はモノラルになります。

放送局を記憶させる

受信状態の良い放送局を自動的に記憶させ、次からは記憶させた番号（プリセット番号）でその局を選ぶことができます。FM20局、AM10局で、合計30局まで記憶できます。

1 ラジオ バンド切換•オートプリセットボタンを押して、FMまたはAMを選ぶ。

2 ラジオ バンド切換•オートプリセットボタンを約2秒間押したままにして、「AUTO」を表示窓に点滅させる。

3 表示切換•決定•メモリーボタンを押す。
プリセット番号の1番から順に、周波数の低い局から高い局へ受信状態の良い局が自動的に記憶されます。

電波が弱くオートプリセットで記憶できなかった局があるときや、特定のプリセット番号に記憶させたいときは

1 ラジオ バンド切換•オートプリセットボタンを押して、FMまたはAMを選ぶ。
2 記憶させたい放送局を受信する。
3 記憶させたいプリセット番号の数字ボタンを約2秒間押したままにする。
プリセット番号が10番以降の場合は、>10ボタンを押したあと10の位の数、1の位の数という順に数字ボタンを押します。1の位の数のボタンを押すときは、約2秒間押してください。
例： プリセット番号12の場合は、>10→1の順に押したあと、2を約2秒間押したままにします。

新しい局を記憶すると、同じプリセット番号に記憶されていた前の局は消えます。

ちょっと一言

記憶させた放送局は、電源コードを抜いたり、乾電池を取り出したりしても消えません。

記憶させた放送局を聞く

1 ラジオ バンド切換•オートプリセットボタンを押して、FMまたはAMを選ぶ。

2 数字ボタンを押して聞きたい局のプリセット番号を選ぶ。
プリセット番号が10番以降の場合は、>10ボタンを押したあと10の位の数、1の位の数という順に数字ボタンを押します。
例： プリセット番号12の場合は、>10→1→2の順に押します。
リモコンでは、プリセット+またはプリセット–ボタンを押して聞きたい局のプリセット番号を選びます。

テープを聞く –TYPE I（ノーマル）テープ専用

1 テープボタンを押す。
自動的に電源が入ります。

表示窓
TAPE

リモコンでは、電源ボタンを押した後にファンクションボタンを繰り返し押して「TAPE」を表示させます。

2 ■⏏ボタンを押し、カセットを入れ、カセットぶたを閉める。
TYPE I（ノーマル）テープをお使いください。

3 ◀ボタンを押す。

◀ 再生

こんなときは	押すボタン
音量を調節する	音量+、–
再生を止める	■⏏
早送りや巻戻しをする	◀◀または▶▶
再生中に一時停止する	II もう一度押すと再生が始まる。
カセットを取り出す	■⏏
電源を入／切する	電源

大切な録音を守る–誤消去防止

ツメを折ると録音できなくなるので、誤って録音内容を消してしまうミスが防げます。ツメを折っても穴をセロハンテープなどでふさげば再び録音できます。

長時間テープをお使いのときは

90分を越えるテープは長時間使用には便利ですが、薄く伸びやすいテープです。こきざみな走行、停止、早送り、巻戻しなどを繰り返すと、テープが機械に巻き込まれる場合がありますので、ご注意ください。